

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171400205
法人名	有限会社 ケアサポート・KSN
事業所名	グループホーム おうち
所在地	佐賀県唐津市相知町平山上乙1196-1 (電話) 0955-51-8330

評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝1丁目1224-2		
訪問調査日	平成 19年10月4日	評価確定日	平成 19年11月6日

## 【情報提供票より】(平成 19年9月10日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 5.4人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷金	(有) (84,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	280 円
	夕食	380 円	おやつ	80 円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86.2歳	最低 76歳	最高 93歳		

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	新屋敷病院・小田歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR相知駅から車で10分ほどの地域に位置し、緑あふれる田園の中に立地する平屋づくりのホームである。近くには「日本の棚田百選」に選定された蕨野の棚田がある。自然に恵まれた環境の中で利用者は、安全に配慮されながら自由に散歩され、手折った野花をホーム内の随所に飾ったり、家庭菜園で収穫を楽しむなど穏やかで落ち着いた生活を営んでおられた。「利用者の尊厳と地域との共生」の理念を、「基本姿勢」として10項目に具体化し、利用者やご家族が安心して生活できる場を作られていた。またボランティアの協力により年1回の棚田コンサートを開催されたり、毎月1回地域の方との交流会を行うなど積極的に取り組まれていた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>介護計画に基づいたケアを行うためスタッフの理解と共有化の仕組みづくりには努められていたが、介護計画作成について利用者やご家族の思いや意見を聞き、職員全員で検討していく取り組みがまだ不十分だった。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義を理解し、職員全員で自己評価に取り組まれていた。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>区長や担当民生委員へ参加について繰り返し働きかけ、市担当課にも相談しているが、協力が得られていない状態だった。地域の幅広い立場の方の参加協力が得られるように、運営推進会議の活用が望まれる。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族に対し、入居者の状況を広報紙や請求書の横に記入し送付したり、毎月1度は訪問があるように工夫されていた。また、来訪時には積極的に職員が声かけをしたり、玄関には相談窓口を明記しご意見箱も設置されていた。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム主催による棚田コンサートや地域の方との交流会を定期的に行い、地域の祭りに参加したり、子ども会による訪問などが行われていた。また買い物や散歩などの機会に地域の方と挨拶や会話を交わすように努められていた。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を見直し、入居者の地域に根ざした生活の維持と尊厳を大切にする為の基本姿勢を具体的に設定し、運営理念とされていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に必ず理念に触れ共有化を図り、ケース検討会等でも確認し合い、勉強会も実施されていた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の運動会や子供クラブの行事への参加や、地域の方との交流会を毎月定期的実施されていた。また年1回、地域のボランティアに歌や踊りを依頼して、棚田コンサートを開催し、地域の方々との交流に努められていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を全職員に伝え理解を促し、自己評価に全員で取り組むよう努められていた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議参加者にはグループホームを理解する機会となっており、家族、市担当者や地区老人会長が参加されていた。しかし、地域住民の参加者として区長や民生委員の参加協力が得られず、幅広い人々の参加による会議となっていなかった。	○	さらに幅広い立場の人が参加する会議とし、運営推進会議の意義や役割等を十分理解してもらい、積極的な参加協力を得ることで、サービス向上に活かされることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当窓口へ広報紙を毎月送付し、運営や現場の実情において問題がある時は市担当者に相談されていた。しかし、行政側から積極的な協働を引き出す取り組みはなされていなかった。	○	さらに事業所の実情やサービスへの取り組みを行政側に伝え、保険者である市担当課と連携し、地域密着サービスが地域住民に理解され、サービスの質の向上が図れるよう努められることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月広報紙と請求書を送付し、請求書の横に個々の状況を記載されていた。また来訪時には個別に報告を行い、他に電話や海外のご家族にはEメールで様子を伝えられていた。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に相談窓口として第三者委員の名前を掲示し、意見箱が設置されており、ご家族の来訪時には入居者の状況報告を行い、意見や要望等がないか声かけが行われていた。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員の馴染みの関係を大切にするために、職員が継続して働く意欲が保てるよう、労働環境等に配慮されていた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部研修は実施されていたが、計画的な研修の取り組みができていなかった。	○	他事業所との学習会や、行政等が開催する研修会に参加できる仕組みづくりと、伝達研修を行うなどの取り組みが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホーム9事業所で交流会を毎月実施し、相互の事業所を見学しあったり、サービスの質の向上を目指して改善点など意見交換が行われていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご家族との交流の機会をできるだけ多く作り、居室にはご家族の写真を飾るなど、入居者の思いに合わせた居室づくりがなされていた。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いに協働しながら、家庭的な雰囲気の中で喜怒哀楽を共有されていた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で個々の思いを把握できるよう努められており、ご家族の協力も得ながら個別の対応がなされていた。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時にご本人の意向を確認したり、計画作成のための職員全員による協議はなされていなかった。	○	介護計画作成時に入居者ご本人やご家族等の思いや意見を引き出し、職員全員でそれを把握し、介護計画に反映されることが望まれる。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はケース記録の日常生活チェック表の横に貼りつけ、職員全員が情報を確認しあい、必要に応じて見直しがなされていたが、ご本人や家族等との話し合いは不十分であった。	○	生活状況に変化が生じた場合は、適宜、本人や家族等の要望を踏まえカンファレンスを開催し、見直した介護計画書を作成することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人やご家族の状況に合わせ、外出の支援が行われていた。また医療連携体制を活かして、協力医が定期的に来診されていた。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には事業所の協力医がかかりつけ医となっているが、ご本人やご家族の希望に応じて以前からのかかりつけ医で診察できるように、柔軟に対応されていた。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者の重度化や終末期のあり方について、入居者とご家族に入居時に説明を行い、ご家族・医師・職員全員で終末期における指針を共有化されていた。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念や基本姿勢の中に入居者の尊厳と権利を守る対応を明文化し、申し送り時やミーティングで確認し、プライバシーを損ねない対応がなされていた。また、記録等の保管については職員室にてなされていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、買い物や散歩等、一人ひとりの状態や思いを大切に、その方らしい暮らしが維持できるよう柔軟に対応されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に畑に野菜を採りに行き、調理の準備や配膳・片づけが職員と一緒に行われていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は決めているが、ご本人が望んで入浴されるタイミングに合わせて支援されていた。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの性格や生活歴に合わせて場面を作り、これまでの経験や知恵を発揮されることで楽しみや生きがいをもてる支援がなされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候やご本人の気分に合わせて、散歩や買い物などの支援を行い、積極的に外出されない方にも心身の活性につながるよう言葉掛けをし、外出支援をされていた。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関その他に鍵をかけず、入居者が自由に散歩や買い物、畑に出かけられるよう支援されており、状況に応じて一緒についていたり、見守りを行うなどの安全面への配慮もなされていた。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練を年2回行い、隣近所の方の協力は得られているが、地区全体の協力体制については取り組みがなされていなかった。	○	地区消防団と連携し、地域住民の協力を得ながら定期的に訓練を行い、入居者の状態に合わせた避難告知の方法(プレートによる文字情報等)も考慮されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や形態を個々の状態に合わせ、食事や水分の摂取量をチェック表に記録し、支援されていた。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には自然光が差し込む天窓が設けられ、玄関や座敷の床の間や食卓には、入居者が散歩に出られて摘んでこられた花が飾られていた。また天気の良い日中は窓が開け放され、小鳥のさえずりが聞こえる居間にほとんどの方が集まっておられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真や仏壇、使い慣れたタンスがおかれ、それぞれの好みに合った生活空間が作られていた。		